

FMR Audio

RNC500



取り扱い説明書

(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Introduction

十年以上に渡ってスタンダードのコンプレッサーであり続ける RNC1773 Really Nice Compressor が API500 互換のモジュールになりました。RNC1773 同様の What-You-See-Is-What-You-Get(フルコントロールなので全てのパラメーターの設定どおりのサウンドがでる)をコンセプトの操作が可能です。また 3 層のレイヤーコンプを模した、まったくアタック感を失わず極めてナチュラルな色付けのないコンプレッションが得られる<Super Nice Mode>をプロ仕様のバランス入出力、API500 フォーマットで使用できることは大きな利点です。

- バランス入出力
- +27dBu オペレーションレベル、115dB ダイナミックレンジ
- MONO チャンネル(リンクスイッチによるステレオオペレーション)
- より高速なプロセッサにより高精細でスムーズな音質を実現
- ノーマルモードとスーパーナイスモードの 2 モード切替
- シールドされたミニチュア・トグルスイッチ
- シールドリレーによる完全なトゥルー・ハードウェア・バイパス
- 亜鉛メッキされたスチール & アルミニウムのエンクロージャー

新たに装備された「Pop Reduction」回路は電源オン・オフ時のポップ音をカットするよう設計されています。

Hook-Up

RNC500 の入出力は API500 専用ラックからフックアップされます。通常は XLR 接続での入出力となります。

THE CONTROLS

FMR Audio RNC500 には 5 つのロータリーノブの可変コントローラーが装備されています。

- **THRESHOLD** - コンプレッションされ始めるレベルを設定します
- **RATIO** - コンプレッションのレシオ値を設定します
- **ATTACK** - コンプレッションのアタックタイムを設定します
- **RELEASE** - コンプレッションのリリースタイムを設定します
- **GAIN** - メイクアップゲインを設定します

FMR Audio RNC500 のスイッチコントロールについては以下のとおりです

- **Engage Switch** - IN 側でコンプレッサーが有効、OUT 側でバイパスされます
- **Mode Switch** - ノーマルモードとスーパーナイスモードを切替できます。ノーマルポジションでは通常のコンプレッションモードとなります。スーパーナイスモードでは、3 台のコンプレッサーをそれぞれ少しずつ効かせることで特有のポンピングやブリージングを排除するテクニックを採用しています。3 層のレイヤードシュミレーションにより、極めて色付けのない音質でのコンプレッションを実現しました。オリジナルのサウンドをすべて保ったままコンプレッションを実行できるので、トラックキング時や、かけ録りにも最適です。
- **Link Switch** - リンクスイッチは 500 シリーズのラックの機能を使った(スロット 1&2、3&4 などのペア)ステレオリンクを実現します。

注:Link 機能を有効にするためには API500 互換ラックがリンク機能に対応している必要があります。またラックフレーム内のバス基板上的リンク端子が結線されている必要があります。詳細はお持ちの API500 互換ラックの説明書をご参照ください。

LINK は 2 台の RNC500 の隣接したサイドチェイン信号のコネクションをフロントのスイッチで切り替えます。ディテクション後の信号を合成し各パラメーターの処理を行います(コンプレッションを決定する前の両チャンネルの信号を合成します)。ステレオコンプレッションの効果を正しく得るためには両方のチャンネルのコントロールは全て同じにしておく必要があります(コントロールはリンクしません)。

Gain Reduction Display

10個のLEDメーターにより正確で精巧なゲインリダクション量をモニターすることができます。本機のゲインリダクション・アマウントはマイクロプロセッサ/DAコンバーターのコンビネーションから送られたコントロールボルテージからコントロールされており静的・動的、両面においての精巧さを保証しています。

メーターLEDをドットで動作させる事で、APIのフレームの消費電流を減しパフォーマンスの向上を図ります。ディスプレイはdB値を示します。

BASIC OPERATION

<USING NORMAL MODE>

ノーマルモードでは、まずは以下のような設定からスタートすることをお勧めします

- ・全てのノブを12時の方向にセット
- ・モードスイッチを“Norm”のポジションに合わせます
- ・IN/OUTスイッチを“In”ポジションに合わせます

ノーマルモードはたいへんフレキシブルに様々なコンプレッションを実行できます。

Subtle Compression (弱めのコンプレッション)

RATIOを1:1~6:1の間に設定し、ATTACKは2.0msc以上、RELEASEは1.0sec以上に設定してみましょう。ゲインリダクションレベルが6~8dB位になるようTHRESHOLDを調整します。

Pumpin' and Breathin' (ポンピング効果を活かしたコンプレッション)

RATIOを6:1~10:1の間に設定し、RELEASEはテイストによって0.3sec~1.0secに設定してみましょう。ゲインリダクションレベルが8~12dB位になるようTHRESHOLDを調整します。

Maximum Control (リミッター的な効果)

RATIO を 25:1 に設定し、ATTACK は最速の 0.2ms 付近に、RELEASE は音源に合わせて設定します (例えば速いトランジェントのスネアドラムのような楽器には速めのリリースタイムを、遅めの楽器には少しずつリリースタイムを遅くしてみましょう)。

<USING SUPER NICE MODE>

スーパーナイスモードは原音を変えずにコンプレッションが実行できるため、生楽器や声の印象を崩すことなく自然なコンプレッションを実行できます。

まずは以下のような設定からスタートすると良いでしょう。

- ・全てのノブを 12 時の方向にセット
- ・モードスイッチを " Super Nice " のポジションに合わせます
- ・IN/OUT スイッチを " In " ポジションに合わせます

上記のベーシック設定を設定したら以下のようにコンプレッションを設定していきます。

1) Threshold の設定

楽曲の中で一番音の大きな部分を再生した時に 6-8dB のコンプレッションが得られるように設定してみましょう。音楽の表情が失われないよう注意深く設定していきます。

2) Attack の設定

アタックタイムを必要そうであれば反時計回り方向に短くしていきます。アタックタイムが短いほど、コンプレッションはアグレッシブなサウンドになります。

3) RATIO の設定

もし更にコントロールが必要そうであれば RELEASE ノブを少しずつ時計方向に回してリリースタイムを長く設定してみましょう。音楽のパンチ感が変化するのを感じられると思います。ナチュラルなサウンドには 0.5 sec 以上の設定(12 時~5 時くらい)が一般的です。

4) GAIN の設定

ゲインリダクション量に合わせてメイクアップゲインを設定します。もし 6-8dB のゲインリダクションを実行しているのなら、+6-8dB のゲインをプラスします。